

ひだまり防災クイズ

100 点満点 (合格点 80 点)

残り時間 (時間制限なし)

テスト開始

○ 問題 1.

“防災の日”は9月1日である。

- (正解) ○
 ×

【解説: 9月1日の“防災の日”は1923年(大正12年)のこの日に起きた関東大震災の教訓を忘れない、という意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて1960年(昭和35年)に制定されました。】

○ 問題 2.

大地震が起きたら、すぐに市が指定した広域避難場所へ避難する。

- (正解) ×

【解説: まず近くの学校や公園、空き地など、広くて安全な場所へ避難する。】

○ 問題 3.

麻生小、南百合小、麻生中など学校は広域避難場所に指定されています。休日に災害が発生しても避難場所として開放できるように、地域町会・自治会の防災担当の方は校門や体育館の鍵を所有していますが、PTA会長も鍵を持っている。

- (正解) ×

【解説: PTA会長は持ってません。災害発生時に少しでも早い避難対応ができる様に、学校のそばにお住まいの地域町会・自治会の防災担当の方が所有しています。】

○ 問題 4.

防災用備蓄倉庫は、麻生小、南百合小、麻生中にそれぞれ設置されている。

- (正解) ×

【解説: 現時点で麻生小にはなく、災害時は麻生中、南百合小、区役所から運ぶことになっています。】

○ 問題 5.

麻生中に設置されている備蓄品の内容について、毛布の数は400枚より多い。(401枚以上備蓄されている。)

- (正解) ○
 ×

【解説：現在500枚備蓄されていますが、冬場など一人で複数枚使用する事を考えれば十分な数とは言えません。】

○ 問題 6.

震災の発生時にも“子ども110番”を利用してよい。

- (正解) ○
 ×

【解説：登下校中に震災が発生ときなども“子ども110番”の施設・お宅へ逃げ込んで構いません。麻生小PTAでは、3.11の震災が下校途中に発生した事を受け、“子ども110番”協力先の皆さまへ向けた『震災時対応マニュアル』を新たに作成し配付してあります。】

○ 問題 7.

運動場にいる時に地震があったら、校舎や防球ネットのそばに逃げる。

- (正解) ×

【解説：校舎や防球ネットのそばは倒壊の危険があります。運動場の中央に集まって先生の支持に従いましょう。】

○ 問題 8.

阪神・淡路大震災による死者のうち、およそ8割をしめた死亡原因は火災である。

- (正解) ×

【解説：死亡原因の8割は、家屋の倒壊や家具の転倒による窒息・圧死でした。】

○ 問題 9.

家具を固定するには、おもいものを上にのせる。

- (正解) ×

【解説：落下の可能性があり危険です。家具の固定には専用の機具を利用しましょう。】

○ 問題 10.

デパートで買い物をしている時、地震が起こったら急いで出口に行く。

- (正解) ×

【解説：その場でしゃがんで揺れの静まるのを待ちましょう。あわてて出口に行かないこと。】

○ 問題 11.

エレベータの中で地震がおきたときは1階のボタンをおす。

- (正解) ×

【解説: 全ての階のボタンをおし、最寄りの階でおりましょう。その後はあわてずに倒壊の危険の少ない広いスペースへ移動しましょう。】

○ 問題 12.

地震のとき、家のなかで一番安全な場所はトイレである。

- (正解) ○
 ×

【解説: 一般的に、柱や壁に囲まれ強度が高いうえ落下物や倒壊物の危険も少なく安全だと言われていています。閉じ込められて出れなくなるのではという意見もありますが、まずは命がなくてこそです。】

○ 問題 13.

寝ているときに地震が起きたときは、ふとんにもぐりこむ。

- (正解) ○
 ×

【解説: そばに避難できるスペースがある場合は別ですが、まずは落下物や倒壊物から身を守るために、揺れが収まるまでふとんの中へもぐりこみましょう。】

○ 問題 14.

家のそとへにげるときは、くつをはくとよい。

- (正解) ○
 ×

【解説: ガラスの破片やがれきなどから足を守るためくつは必要です。普段から緊急避難用のくつをそばに用意しておくといいでしょう。】

○ 問題 15.

非常時の持ち出し品の重さとして適切なものは、男性が20kg、女性が15kgである。

- (正解) ×

【解説: 男性15kg、女性10kgが適切とされています。】

○ 問題 16.

避難生活では、おおきなゴミ袋が役にたつ。

- (正解) ○
 ×

【解説: 通常のゴミ袋としてだけでなく、風を遮断したり水を汲んだりとその他の道具としても役に立ちます。】

○ 問題 17.

各家庭の備蓄は、最低でも水は1人3L×2日分、食料は、1人1日3食×2日分が必要である。

- (正解) ×

【解説：最低3日分必要といわれています。実際に避難生活が始まってもすぐに給水活動や食料の配給ができるとは限りません。】

○ 問題 18.

地震がおきると、みんなが一斉に電話をかけるので、ケータイ電話はつながりません。そんな時、「災害用伝言ダイヤル」というのがありますが、その電話番号は「171」である。

- (正解) ○
 ×

【解説：おうちの電話や公衆電話から、「災害用伝言ダイヤル」にかけると、おうちの人に「ぼくは○○さんの家にいます」というメッセージを残したり、おうちの人が残したメッセージ、「お母さんは麻生小学校に避難しています。」を聞くことができます。】

○ 問題 19.

火事で煙が部屋全体にいっぱいになってきたら、急いで走って逃げる。

- (正解) ×

【解説：低い姿勢で避難しましょう。床に近いところは煙が薄いので、ハンカチなどで口を覆いましょう。】

○ 問題 20.

地震災害は、世界中のどこでも起きている。

- (正解) ×

【解説：世界には地震による被害をほとんど受けたことのない国もたくさんあります。アメリカのニューヨークやロシアのど真ん中では、地震は起きません。ところが、なんと世界中で起こる地震の約23%(5回に1回)がこの狭い日本で起きています。このように、日本では地震は必ずおきます。南海地震は2040年までに60%の確率でおこるともいわれています。おきてしまってから困らないように、3日分の水や食べ物を用意しておく、お風呂の水をためておく、家族がバラバラの時に地震が起こったら集合する場所を決めておく、など、日頃からちゃんと準備しておきましょう。】

お疲れ様でした。「採点」ボタンを押して採点してください。

採点

結果:100点(合格)